

土づくりのため、麦わらは焼かずにすき込みましょう！

発行：香川県農業協同組合
監修：香 川 県

10月		11月		12月		1月		2月		3月		4月		5月		6月											
排水対策 (ほ場の乾田化)				耕起／播種・排水溝の設置 (溝あげ)				麦踏み・土入れ				刈取り／乾燥調製															
雑草防除(播種前) 種子消毒				雑草防除(初期)				雑草防除(中期)				アブラムシ防除 赤かび病															
(浅耕)(溝あげ)(雑草)		(消毒)(播種)		(雑草)		(排水)		(麦踏み)(土入れ)(雑草)		(追肥・土入れ)		(防除)(必須防除)		(刈取り)		(乾燥)											
稲刈取後のワラを浅へ(3〜5cm) 鋤き込む。 除草剤を散布する。 雑草の発生が多い場合は、ほ場の過湿を防ぐ。 排水溝を設置し、 排水溝の深さを浅く(3〜5cm)		伝染病対策として種子粉衣 種子更新を毎年行い、種子		発生前までの散布が効果が高 初期除草剤は、播種後から雑草		同時、補修を行う。 連結する。生育期間中も 排水溝と落水口を確実に		散布する。 除草剤は露がなくなつてから 抑草効果もある。 排水溝の補修を同時に行う。 に土が乾いた状態で行う。 節間伸長期前(一月中旬)まで		追肥後に土入れを行うと効果が高い。 二月下旬〜三月上旬にかけて追肥。		防除する。 アブラムシ類の発生初期に		その7〜10日後に行う。 赤かび病の防除は、開花始めと		の種が混ざらないようにする。 ラを抜き取り、異種麦や草 (カラスノエンドウやヤエムグ 刈取り前に必ず異種麦や雑草		速やかに収穫する。 刈取は3〜4日間と短いため 下が適期である。 30%以下になれば始め、25%以 コンバインの刈取は穀粒水分が		ため注意する。 穫ロスの増加や品質が低下する 収穫が遅れると中折れによる収							
排水溝の事例 (播種直後) 30〜35cm 15〜20cm ロータリー幅				播種前の排水溝 設置作業				落水口と排水溝の連結				土入れ作業				刈取適期目安 <table border="1"> <thead> <tr> <th>播種時期</th> <th>出穂後の目安</th> <th>刈取適期の目安</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11月中旬</td> <td>48日前後(45日〜52日)</td> <td rowspan="2">水分含量25%以下 (穀粒に爪の跡が残らなくなった頃)</td> </tr> <tr> <td>11月下旬</td> <td>46日前後(43日〜51日)</td> </tr> </tbody> </table>				播種時期	出穂後の目安	刈取適期の目安	11月中旬	48日前後(45日〜52日)	水分含量25%以下 (穀粒に爪の跡が残らなくなった頃)	11月下旬	46日前後(43日〜51日)
播種時期	出穂後の目安	刈取適期の目安																									
11月中旬	48日前後(45日〜52日)	水分含量25%以下 (穀粒に爪の跡が残らなくなった頃)																									
11月下旬	46日前後(43日〜51日)																										
刈取適期の穂																											

播 種 期	節間伸長開始期	出 穂 期	開 花 期	成 熟 期
11月14日	2月23日	3月28日	4月4日	5月15日
11月24日	3月3日	4月1日	4月8日	5月17日

(香川県農業試験場(綾川町) H28～R7年産トリル播)

種子更新を徹底し、種子伝染性の病害の発生を防止しましょう

播 種 適 期		播種量 (kg / 10a)
中山間地	11月10日～20日	7～8
平坦地	11月15日～30日	

・ 播種適期より早い播種は、過繁茂になりやすく、倒伏や凍霜害のおそれがある。
・ 播種適期より遅い播種は、播種量を増量する。
・ 12月25日より遅い播種は、収量・品質が低下するおそれがある。

肥 料 名					全 量	基 肥	追 肥 (2下～3上)	成 分		
いすれか	硫 加 燐 安 4 0 2	(朝 日 B B 4 8 8) (P K セ ー プ エ コ 4 8 8)	70	50	20			窒素	リン酸	カリ
								9.8	7.0	8.4
								9.8	5.6	5.6
								9.8	5.6	5.6
土 壌 改 良 資 材					60～100	60～100				

注1) 1月に葉の黄化が見られる場合、追肥を10kg施用し、残り10kgを2月下旬から3月上旬に施用する。
 注2) ()内の肥料は低PK肥料のため、5年を目途に土壤診断を実施する。

肥 料 名		ケイ酸	苦 土	アルカリ分	鉄 分
いずれか	粒状ユーキ鉄ケイカル	23	4	34	15
	麦 薬	10	5	51	0
	粒 状 苦 土 石 灰	0	15	53	0

除草剤・雑草名	ヤエムグラ	カラスノエンドウ	スズメノテッポウ	タデ
ハーモニーDF	○	△	○ 注2)	△
エコバートフロアブル	○	△	—	△
バサグラン液剤	○	△	—	○
MCPソーダ塩	△	○	—	△

種 名	ヤエムグラ	カラスノエンドウ	スズメノテッポウ	タデ	スズメノカタビラ	カズノコササ	キツネノボタン
草 姿							
防 除 の ポイント	中期除草剤による 防除	収穫前に 必ず抜取	初期除草剤と中期 除草剤の体系防除	中期除草剤による 防除	中期除草剤による 防除	播種前と初期除草 剤の体系防除	中期除草剤による 防除

①排水対策
播種前対策：ほ場の周囲(ヨケ)と5m間隔に排水溝を設置するとともに、スタプルカルチやサブソイラー、弾丸暗きよを施工する
播種後対策：ロータリー幅ごとに深さ15～20cmの排水溝を設置し、落水口と確実に連結する

②土づくり肥料の施用で酸度矯正(適正pH6～6.5を目安とする)

③適切な肥培管理
1月に葉の黄化がみられた場合に追肥(5. 肥培管理参照)

④雑草の体系防除
播種前、初期、中期除草剤の体系処理による雑草防除の徹底

⑤病虫害の防除
赤かび病の適期(開花始めとその7～10日後の2回)防除

⑥収穫の適正化
適期収穫・雑草種子(カラスノエンドウ・ヤエムグラ)の混入防止

スタブルカルチ サブソイラー 弾丸暗きょ

- ・開花期～乳熟期に高温多雨になると発生しやすい。
- ・農産物検査規格で、0.0%以上の被害粒が確認されると規格外となるため、必須で防除する。

①種子消毒					
病害虫名	薬 剤	希釈倍数等	使用時期／回数	注意事項	
裸黒穂病	ベンレートT水和剤20	乾燥種子重量の0.5%	播種前／1回	種子1kgに対し5gを粉衣する。	
	ベンレートTコート				
②病害虫防除					
病害虫名	防除時期	薬 剤	希釈倍数等	使用時期／回数	散布方法・注意事項等
赤かび病 ※必須防除	開 花 始 め (1回目防除)	トップジンM 水和剤	1,000～ 1,500倍	収穫30日前まで ／出穂期以降は1回	10a当たり100ℓの水に(66.6～100g) 溶き噴霧機等で散布する。
	1回目防除の 7～10日後	ワークアップ フロアブル	2,000～ 3,000倍	収穫7日前まで ／3回以内	10a当たり100ℓの水に(33.3～50ml) 溶き噴霧機等で散布する。
アブラムシ類	発 生 初 期	アグロスリン 乳剤	2,000倍	収穫21日前まで ／3回以内	10a当たり100ℓの水に(50ml)溶き噴霧 機等で散布する。

区分	薬 剤	対象雑草名	使用時期／回数	10a当たり 使用量	散布方法・注意事項等
初期 除草	ザクサ液剤	一年生雑草	耕起または播種前 雑草生育期) / 1回	300～ 500ml	10a当たり100～150ℓの水に溶き、雑草の莖葉全体に均一にかかるように散布する。 播種後は散布できない。
	ブリグロックスL	一年生雑草	播種前または播種後 出芽前 / 4回以内	600～ 1,000ml	10a当たり100～150ℓの水に溶き、雑草の莖葉全体に均一にかかるように散布する。
	ラウンドアップ マックスロード	一年生雑草及び 多年生イネ科雑 草	耕起前または播種後 出芽前(雑草生育期) / 3回以内	200～ 500ml	(通常散布) 10a当たり50～100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。 専用ノズルで散布する。
	ボクサー	一年生雑草	播種後～麦2葉期まで (雑草発生前～発生始期) / 2回以内	400～ 500ml	10a当たり70～100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。 抵抗性スズメノテッポウを対象とする場合は、薬量を所定の範囲内で多めにする。 ノミノスミには効果がある。
	リベレーター フロアブル	一年生雑草	播種後～麦3葉期まで (雑草発生前～イネ科 雑草1葉期まで) / 1回	60ml	10a当たり100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。 播種深度が浅い場合は薬害を生ずる場合があるので使用しない。
中期 除草 注1)	リベレーターG	一年生雑草	播種後～麦2葉期 (雑草発生前～イネ 科雑草1葉期 まで) / 1回	4～5kg	手まきまたは散粒機等で均一に散布する。 抵抗性スズメノテッポウを対象とする場合は、薬量を所定の範囲内で多めにする。 土壌表面が過乾燥の場合は、効果が劣る。
	ハーモニーOF	一年生広葉雑草 及びスズメノ テッポウ	麦3葉期～節間伸長前 (スズメノテッポウ5葉 期まで) / 1回	5～10g	10a当たり100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。 器具を使用後、速やかに消石灰水500倍液でよく洗浄する。 抵抗性スズメノテッポウには、効果がない。
	エコパター フロアブル	一年生広葉雑草	節間伸長開始期まで (一年生広葉雑草 2～4葉期) (ただし、収穫45日前 まで) / 2回以内	50～ 100ml	10a当たり100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。 散布後、軽微な白斑・褐斑を生じることがあるがその後の生育・収量に影響はない。
	バサグラン液剤	一年生広葉雑草 (イネ科を除く)	生育期但し 収穫90日前まで / 1回	100～ 200ml	10a当たり70～100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。 イネ科雑草には効果がなく、イネ科雑草が混在する場合はこれらに有効な除草剤との体系で使用する。 はたか麦は、収穫90日前までの散布とす。
	MCPソーダ塩	一年生及び 多年生広葉雑草	幼穂形成期但し、 収穫45日前まで / 1回	200～ 300g	10a当たり70～100ℓの水に溶き、噴霧機等で散布する。 分げつ抑制作用があるため、茎数が増分確保されてから散布する。 暖かい日が続く時期に散布すると、除草効果が高い。

注1) 早播きのほ場や初期除草剤の散布が遅れたほ場、初期除草剤散布後に降雨があった場合など、雑草が繁茂している場合は、時機を逃さないように、天候を見ながら中期中除草剤により雑草防除を行う。

注2) ①②③について記載している薬剤の使用基準は令和7年7月1日現在のものであり、今後変更になる場合があるため、使用する際は薬剤のラベルをよく読み、ラベルの記載内容どおりに使用する。

作成：2025年8月

排水対策を徹底し、単収向上と高品質化を図りましょう！